

「つなみとんでん」はしれ上へ!

指田 和・文 伊藤 秀男・絵
(ポプラ社・1365円)

子育て中の女性たちが交流する場を設けたり、社会復帰するのを支援したりする活動をしています。名称の「ぱらママ」は、ぱら (para) が「う」のためにという意味のスペイン語で、「ママのために」との思いを込めて付けました。

最近、組織管理や人材の有効活用を考えると、読書の大切さを再認識しています。そんな中、子どもにぜひ読んであげたい手にしたのが本書です。

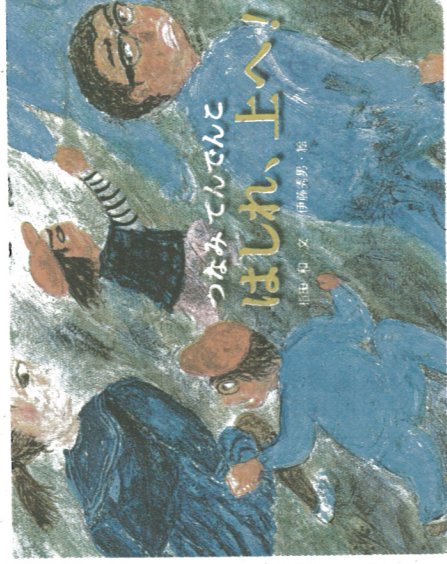
絵本は好きで、小さいころに母がよく読んでくれました。自分も母親となり、小学2年の一人息子に時々読み聞かせをしています。最近、新刊の絵本であり、心に残るものがなかったのですが、本書は涙が出るような内容でした。

2011年3月11日、東日本大震災で襲ってきた津波を釜石県釜石市の小中学生が生き抜いたドキュメントです。鵜住居小の児童や釜石東中の生徒らが津波を逃れ、高台へ必死に避難する様子を、臨場感のある絵とともに描いています。

「つなみとんでん」とは、津波のときはとんでぱらぱらに逃げるという意味です。本気で逃げる釜石東中生徒の姿に、

近刊私の1冊

味
三
春
読



小学生や若年層もつられて避難し、大勢の命が助かった。過去に津波被害を受け、目撃者から備えをしていたからこそ結果だと思っています。

津波の映像はテレビでよく流れましたが、小さな子はその怪獣を深く考えることなく「怖いなあ」で終わってしまいがち。その点、絵本は何度でも読み返せ、親子でわが身に置き換えて「僕はここに逃げればいい?」「一生懸命逃げるのよ」などと話しながら、有事の対処法を理解させることができそうです。

岡山県でも東海、東南海、南海の3地震が連動した南海トラフ地震の発生が憂慮されています。巨大地震が起きたとき、備えは大丈夫でしょうか。

私の住む岡山市中区平井地区では子ども会が減り、アパートでは名前を知らない住民もいるなど、人間関係が希薄になっています。地域の防災意識も、公助ばかり求めて共助の精神が乏しい気がします。このため学校だけでなく、地域を基じた防災訓練が必要ではないかと思っています。住民が万一のときの避難経路や役割を確認し合い、他人を思いやり、助け合う地域づくりにも役立っています。

本書では釜石東中生徒が考え、家々に配った「安否札」の効果も紹介されていました。住民が名前や避難先を記し、自宅玄関に張り出す札です。立ち寄った家人に安否を伝えて避難に向かわせ、何人もの命を救ったそうです。これはいいアイデアで、岡山でも活用できると思います。

震災を生き抜いた子どもたちは、人の気持ちができる、すごい大人になるでしょう。津波が迫る中、小さな子の手を取って逃げたお兄さん、お姉さん。子どもたちをそんな強く優しい人に育てたい、と本書を読むたびに思います。

(談) 聞き手・大立貴巳

涙が出た津波避難の様子

ふじい・やよい 関西外国語大学
ペイン語学科卒。アパレルメーカー勤務、児童英語講師などを経て2010年、ぱらママの活動開始。12年8月、NPO法人「輝くママ支援ネットワーク」の社会参画・復帰を支援するイベントやセミナーを開き、情報サイトを運営している。岡山市出身・在住。



MIYA TOMIYA GOLD 1038 MECHA-MUSEUM TOMIYA Gallery Our Story TOMIYA TOMIYA Time Art TOMIYA STANICK MILLER by TOMIYA

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL:086-233-1038 TEL:086-212-1038 TEL:086-233-1038
TEL:086-235-1038 TEL:086-226-1038 TEL:086-232-1038
TEL:086-234-1038 TEL:086-222-1038 TEL:086-238-8513